

酒々井町

郷土研究会々報

第11号
昭和54.4.10 発行
酒々井町郷土研究会総務部

県古代文化の栄えた 中心地「市原」の過 去と現在を観る

市原市の開発の歴史は古く
養老川兩岸の洪積台地上に残
る縄文・弥生時代の多くの
遺跡が残っている。古墳時代
には 上海^{（みづのやま）}上国造がふかれ
大化の改新にはこの地に上総
国府が ひらかれ、天平十三
年（七四一）上総国分寺が建立
され、市原は 古代上総国に
おける政治・文化の中心地と
なった。国分寺は市内惣社
にあり境内には無数の布目瓦
がいたるところに破片を残し

ている。むぞうこに手にして
見る一枚の瓦の破片が、千年も
昔の頃 栄華をほこった 天平
の甍とは信じがたい気持であ
る。現在国分寺跡付近は急
速に広範囲の住居化が進み、そ
の中心部には 超近代的建築の
市原市役所 と市民会館が建て
られており、古代文化、政治の
中心地は現在奇しくも同じ場所
に、政治・経済・文化の中心地
として発展しつつある。

三月十三日、十六日は今年最
初の町外史跡見学会と行いまし
た。十三日はあいにくの雨降
りでしたが、申込者三十三名一
人の欠席者もなく、又十六日も
三十五名この日はお天気に恵ま
れ、値上げされた昼食のお弁当
に気よくしながら目的の地へ無
事に歩を進めました。

鳳来寺観音堂（十二面観音）



国の重要文化財に指定されて
いる 西願寺阿彌陀堂と 鳳来
寺観音堂と見学する。どちらも
豪族 土橋平蔵のゆかりの御堂
で、一時は田んぼの中に傾れか
かっていた時期もあったとか、
現在は国指定の重文という保護
のもとに、木束の姿に建ち直り
周囲の景観ともよく調和してい
て 静かな田園風景の中に、何ともい
いようのない品位が感じられる。
古の人々の 観音様、阿彌陀様に
寄せる 信仰の心がそこはかとば
く思われて、早春の一日こころ良
い見学会であった。

おじいさんに
きいた話



ボクモケキヘエ
牡丹餅喜兵衛三十石

川島 討介

今は七き本家の伯父(市太郎)の口承で何度も聞いていたが時代もはつきりわからないのでアテにはならないし、ことによると先祖の恥さらしにもなるうか。とにたく話してみましよう。まあお話しください。

酒々井の下宿に(今は家はな

い) 喜兵衛どん(殿)という、

かなり裕福な暮らしをしていて、旦那様がいた。これが大の牡丹餅好きで年がら年中牡丹餅と憶えて切らしたことがない。

何としても牡丹餅が好きなので、よその人が食べてくれる

とえびす顔で喜んでいて。それも、ただ、なのだから世辞

はない。大人が来ると「どうですかー」と、子供が来る

と「どうだいー」と、でさきがない。当時酒々井の宿場は盛んだったから有名になる。旅の人が来てもらうので「かー」とある。鼻だら

し子僧(今は居ないが昔は鼻だらが多かった)で、子どもを鼻だらし野郎といっていた。今は今とら

って買食いも思うにまかせないの。で「おじさん牡丹餅くんねげ」とぞろぞろやって来る。こんな異

合だから年がら年中炊いては作る

作ってはただで食わせる。

：まあ三十石といえは七十五俵

三千升にもなりませんか？ それだ

けでなく、小豆も必要。甘い味も

必要。だからたま、ものじゃな

い。

閑話休題、甘味料はどうした

だらうか。たぶん甘藷から作る

明治の初期に当区で手工業で専

門に作っていた人が居た。甘藷

は八代将軍吉宗の命令と、雨町

奉行大岡忠相の助言を得て青木

畏陽が、享保二十一年(一七三六)

さきんの天明(一七六一)一七六三の四年間、天保(一八三〇)一八三七の五年間連続と失うま

ず切りぬけることが出来た。天保年間には、検見川でイモ

餅を作るようになった。幕末には、いも神祇(長陽神社)が

ある。ここでも小原左助さんと思

えず。朝寝、朝酒、朝湯が大

好きで、それで身上とつぶし

に庄助さん、喜兵衛どんも

とうとう身上とつぶしてしま

って寝なくなってしまう。た、

という、何とも人の好い大旦那様の一代記のお話。

明日香の春



念願の奈良・明日香を
訪ねて生命の光輝とし
ながら詠める歌一首。
創作同人 押尾克己

剗ねられし入鹿の首の空と飛び
落ちし田圃も青く草雨ゆ

菜の花の咲けるも見ゆる明日香村
人びとはまだ田起しとせず

二上(山)に夕もや湧く故に
処刑されたる皇子と思ふ(全甲の乱)

飛城とするらしき白きテント見え
明日香の燈ともやまた零れず

おそろおそろ顔と近づけ産生寺の
弥勒菩薩に對面叶う

無直に五重の塔は建てられて
朱の冴えと木立の中に

遠つせに頼田の女王敬歩せし
路かも知れぬ参道と行く

一枚の破戸の上に密柑置き
銭はこれへと小箱おかれぬ

かさ曇り空より水の落つる日に
四百と越ゆる階段登る

石舞台の古墳は往時の工法の
進歩示せど半ば呆れつ

赤人の墓より木でて見下ろすに
糖浸け花の柵田に白し

一口に言うなれば現代と古き世の
ガク々浪せにある明日香野の村



(野草の会に参加しよう)

青木朝次

郷土研の行事にも色々あり
りますが、古文書・歴史講座

石佛、等は面白いものと感じら
れ初心者にはいまい少しの

ところですが、

一番参加

しやすい

野草の会

から始め

られたら

いかがで

しょうか

今回は、野草の会を充分に

理解していただき、かつ会

員となって参加していただ

けるよう、野草の会の紹介

をいたしました。



参加しても、いつも目新しい野草
と出会えますから、学校の中途入
学とはらがあ、て、去遅れと感
じることありませぬ。

野草の名前と覚えることはとて
も楽しいこととす。名を知るこ
とによって野の花にとても親しみ
と感じます。今まで気付かぬか
つた野草の美しさに驚
かされます。色々と名
前を聞いてもすくなく忘れ
てしまふこともありま
すが、重宝的に三種位
の名を覚えて下さい。

もう面白くて
畑や庭の草をむしるに
もこれはカタバミ、
これはスズメノカタビ
ラ、これはカキノカタビ
ラ、といったふうにして
仕事も楽しくはかどる
こと請合いです。
(私の体験からも実証済み)

お正月に役場の玄関で、当野草の
会主催の七草のゆい集いの時、用意
した七草の鉢植えを御覧の方もあ
るでしょうが、草、なづな、沖行
はこげら、仏の座、すずな、すずし
ろ、これや七草と、名前には言えても
実際に野にあるものを知る人は少い
様です。
せり、はこげは皆さん御存知でし
ょう。すずな、すずしろは蕪と大
根、なづなはパンパン草、御行
は母子草、仏の座はコオニタビラコ、

これら名前と共に、名前が付
いた由来というの、理由という
か、そういうに事も一語に覚え
てゆくと、一層深く野草への興
味も増してくるものと思えます

例えば「仏の座」コオニタビ
ラコは、田平子で田んぼに多く
見られ、平べったく、へばりつ
くような感じに咲いています。

オニタビラコの様に茎が太く上
へ伸び丈が高くないのでコ(小)
の字が付けられたと思ふのだが
どうしてオニの字が加わったの
かは定かではない。全体が仏
様の円座のようになるので、仏
の座とも呼ばれて春の七草のひ
とつになつてゐる。又シソ科の
ホトケノザ(本名は七草の仏の
座はコオニタビラコの別名で)
これと混同しない様に「三階草」
(花が三段になつて咲くので)と呼ばれ
ています。

これから毎回少しづつ野草と紹介し
てゆくつもりですが、実際に気軽に
野草を見て歩き、ついでに史跡も見学
して、又七草の会、山茶、野草研の
会なども催してゆきます。遊んだ空
気と太陽の光を背に、雲雀の歌と頭上
に散々くしませんか。

俳句

上総国分寺址にて

国分寺残る礎石や蓬前ゆ
国分寺礎石礎石に春の雨
手も揚ぐ仁玉の肩に春の塵
雨霽れて上総山なみ笑ひ初む
(小別当松風)

塔址雨晴れそうな草焼いてある
人が人を待つて雨の向うの菜の花
犬ふぐりお堂の朽らてゐる雨
本堂の道掃いてあるつくしんぼう
(相京邑草子)

3/3, 3/6 見学公

会計報告 (市原)

収入	会費 66x1000	66,000
支出	弁当 400x69	27,600
	みつ 200x69	13,800
	鳳来寺浄礼	2,000
	西願寺浄礼	4,000
	バス代	16,000
		63,400
残額		2,600

残金は郷土研会計へ繰入れ
ます 会計 細川

4月 郷土研行事計画 6月

昭和54年	四月	五月	六月	備考
古文書学習会	4/10(火) PM 1:30~ 研修所	5/12(土) PM 1:30~ 研修所	6/6(土) PM 1:30~ 研修所	佐倉牧野馬日記の 解説と解説
野草の会	4/14(土) PM 1:00 ・酒々井トンネル上付近 東酒々井入口集合 ・厚橋東電子産地の埋 蔵文化財居住址の発 掘現場見学 ・雨天の時 4/16	5/25(金) ・千葉市「昭和の森」 植物観望会 ・AM 9:00 役場集合 バス使用 金費 ¥1,000 (昼食含) ・先着35名 車 96-1171 ・雨天中止	6/3(日) ・AM 9:30 東酒々井東口集合 ・町内史跡めぐり と合流	4/24(火) 山菜を食べる会 ・AM 11:00~ ・青年研修所 ・金費 300円 ・先着順35名 車 96-1171

町外史跡見学会(印西地区)

(A班) 6/19(火) (B班) 6/22(金)

前回は市原市の国指定建造物と見学しましたが
今回、印旛郡印西地区にも国指定の重文文化財が
集まっているのもめずらしいので見学します。

- ・AM 8:30 役場前集合 金費 ¥1,000
- ・申込先 TEL 96-1171(教育委) 先着各班35名
- ・コース

師土城址(現在公園として造成中)

岩戸泉橋寺薬師堂
昨年三月国の重要文化財に指定された浄堂。

本笠村茶福寺薬師堂(国指定の重文)
果下の文化財指定建造物中最古のもの

印西町泉倉寺延命地藏尊(果指定文化財)
本尊は寺位では源頼朝の念持仏であったと
しており、地元では雨乞いの地藏様として
古くから信仰されてきた。

小倉宝珠院観音堂(国指定の重文)
泉倉寺のすぐ南西側にあり地元では一般
に「光堂」と呼ばれている。

町内史跡めぐりハイキング

6/3(日)

- ・国鉄酒々井駅東口集合 AM 9:30
- ・雨天の場合は 6/10(日)
- ・コース

上岩橋とらふ山・永徳三年板碑
(町指定)

妙楽寺

長福寺見方門天(町指定)

菊賀神社

駒形神社

大坂観音

旧成田道

解散(行程 5キロ)

頼る下ら「山
い方まの茶を
しといある食
る父お場所
すこん手所
すども伝こ
よるしと
ろしてそ
く下て
(4)おて

れし謀め
ますへて
新動に
どしだ
ぞく二
そ京年
よ氏間
ろ氏細
しく引川
引引苦
がで株企
がでと

さ疲会ン流
やか報と波
かに書と山
にお出が胸
と何きと歩
どと始い
けなめる
し本も
ま号し
はど
とさ

後記
水戸の僧
光寺の僧
妙楽寺の
春の茶
のオ
マ

3/7 郷土研運営委員会
4月5日までの行事計画について
協議する。出席者 十九名

3/16 市原史跡見学会

3/10 古文書学習会
野馬日記の研究

2/18 石傳調査
酒々井勝蔵院、東城寺、
円福院とその墓地

郷土研 記録

2/10 古文書学習会
寛政五年野馬日記の解説